

今月は、「内視鏡検診の実態と今後の課題」をテーマに特集を企画した。平成26年度に改訂された「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年版」で内視鏡検査による胃がん検診が対策型検診として推奨された。それを踏まえて厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」により、胃がん検診の検査項目として胃内視鏡検査を加えるとの提言がなされ、平成28年度から胃内視鏡検診が行われるようになった。また *H. pylori* 感染率が低下し、除菌治療も広く普及してきている。このような時代背景をもとに、胃内視鏡検診の実態とこれからの時代にどのような内視鏡検診が求められるのか、前半6名の先生にその現況と課題を概説していただいた。一方、大腸癌罹患率がすべての癌のなかで第1位となり、今後、大腸癌撲滅に向けて内視鏡検診の果たすべき役割は大きいものと考えられ、後半では、6名の先生にわが国の大腸がん内視鏡検診の現状と今後の課題について述べていただいた。最後に松田浩二氏に、日本消化器内視鏡学会の一事業である「内視鏡検診のデータベースとJapan Endoscopy Database Project」を解説していただいた。検診(スクリーニング)JEDが全国的に整備され、検診における消化器内視鏡検査の現状と役割が明らかになる日は近いと期待される。松田尚久氏の論文「内視鏡介入型の対策型大腸がん検診に向けた今後の課題」のなかの、“都道府県別に見た消化器内視鏡専門医数と大腸癌SMRとの関係”は、初めての分析であり、消化器内視鏡専門医のあり方と地域医療の今後を考えていくうえで大いに参考にしていただきたい。また、関口正宇氏の論文「費用対効果の視点からみた大腸がん検診」のなかの、“医療経済や消化器内科などの複数の分野の専門家が共同して質の高い分析・研究を行い、その結果を医療政策に反映する流れを構築することが望まれる”とのまとめは、今まさに重要な提言であり、国家レベルで検討していく必要がある。本特集号が、内視鏡検診に携わる医療関係者の方々の診療のお役に立てれば望外の喜びである。

(田尻 久雄)

臨牀 消化器内科® Vol. 32 No. 12

©2017年10月20日発行

定価(本体2,750円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2017, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791